

日本ハンドテスト研究会 設立趣意書

この度「日本ハンドテスト研究会」(Japanese Society for the Hand Test)を設立し、わが国におけるハンドテストの臨床実践研究の発展を期したく、設立の趣意を述べ、入会のご案内を申し上げます。

Edwin E. Wagner 博士が 1962 年にハンドテスト・マニュアルを出版してから 60 年が過ぎようとしています。日本には 1970 年に箕浦康子先生によって最初に紹介され、2000 年によく『ハンドテスト・マニュアル(誠信書房)』の翻訳本が刊行されました。その後、私たちハンドテスト・マニュアルの翻訳者三人(山上榮子、吉川眞理、佐々木裕子)は、ハンドテストに関する臨床実践と研究を重ね、日本におけるハンドテスト臨床の実際を紹介し(『臨床ハンドテストの実際(誠信書房)』)、大学院生にハンドテストを紹介し続けてきました。ハンドテストは、まだまだ一部の方にしか存在の知られていない心理検査法ですが、私たちのもとを巣立った多くの方々が、それぞれの臨床現場で、使い勝手の良い有効な投映法検査として、心理支援実践に役立ててくれています。

そこで、私たちハンドテスト・マニュアル翻訳者三人は、日本中にいるハンドテスト実践家の方々と情報交流の場として、また私たち相互の研鑽の機会を作るために、「日本ハンドテスト研究会」を設立することにしました。設立にあたり 1 月に設立総会を開催すると同時に、研究会ホームページを開設します。さらに、3 月にはオンラインにて最初の研修会『ハンドテスト・セミナー 2021』を開催する予定です。本研究会の活動は、ホームページを通して、会員の皆さんに公開するとともに、日本におけるハンドテスト実践研究の蓄積を皆さんと共有していくことで、次世代の心理臨床実践家の方々にハンドテストを継承していけることを願っています。本研究会の趣旨にご賛同いただき、多くの方にご参加いただきますよう、よろしく願いいたします。

2021(令和3)年1月16日

研究会設立発起人

聖徳大学心理・福祉学部心理学科 教授 佐々木 裕子

森脇神経内科 臨床心理士(元神戸学院大学 准教授) 山上 榮子

学習院大学人文学部心理学科 教授 吉川 眞理

研究会事務局連絡先：jshandtest@yahoo.co.jp